

# 第24組 広報

発行日  
2014年11月1日  
第162号  
発行責任者  
組長 美濃部俊裕

## 真宗本廟 報恩講 ーご案内ー

私たち真宗門徒が宗祖と仰ぐ親鸞聖人は、1262（弘長2）年11月28日に、そのご生涯を終えられました。宗祖が果たされたお仕事を讃え、文字どおり恩徳に感謝し報いるためのおつとめが報恩講です。一人ひとりが自らの生活を振り返り、宗祖親鸞聖人の教えの意義を確かめる、一年でもっとも大切な御仏事です。

聖人のご一生は、「ついに念仏の息たえましましおわりぬ」と、まさに念仏に貫かれたものでした。現実社会を生きていくなかで、本願念仏の教えをかけがえのないものとして確かめる機縁として、私たちは報恩講を大切におつとめしていきたいものです。

報恩講は、全国各地の寺院・教会をはじめ、門徒の家々においてもつとめられており、「お取越（おとりこし）」や「お引上（おひきあげ）」の名でも親しまれています。

報恩講は聞法と共に、人々が寄り合い、御齋（おとき）をいただくことなど、あたたかな触れ合いの中で、今日まで賑々とつとめられてきました。お誘い合わせてお参り致しましょう。

**期日 11月21日（金）～28日（金） 会場 真宗本廟（京都：東本願寺）**

### 各寺報恩講のご案内

寺院名	法座名	期 日	法話者
恩覚寺（西阿閉）	報恩講	11月1日（土）～2日（日）	住職
覚勝寺（西阿閉）	報恩講	11月14日（金）～16日（日）	住職
充滿寺（西野）	報恩講	11月2日（日）～3日（月）	専照寺住職
圓行寺（西柳野）	報恩講	11月1日（土）～3日（月）	住職
妙覚寺（東柳野）	報恩講	12月5日（金）～7日（日）	曾我謙成氏
梅龍寺（磯野）	報恩講	11月15日（土）～16日（日）	住職
本宗寺（磯野）	報恩講	11月8日（土）～9日（日）	住職
双林寺（西物部）	報恩講	11月23日（日）	住職
猶存寺（布施）	報恩講	11月14日（金）～16日（日）	
長照寺（唐川）	報恩講	11月15日（土）～16日（日）	高岡淳氏・住職・副住職
圓常寺（千田）	報恩講	11月7日（金）～9日（日）	住職
來入寺（千田）	報恩講	11月7日（金）～9日（日）	住職
明德寺（黒田）	報恩講	11月14日（金）～17日（月）	貴山 明氏
樹徳寺（田居）	報恩講	11月7日（金）～10日（月）	秦 信映氏
誓海寺（大音）	報恩講	11月14日（金）～16日（日）	住職
明源寺（今市）	報恩講	11月8日（土）～9日（日）	伊藤賢隆氏
景好寺（柳ヶ瀬）	報恩講	11月1日（土）	秦 信映氏

# お寺の掲示板

## 樹徳寺

木之本町田居

「お寺の掲示板」今回は、木之本町田居の樹徳寺さんを訪問しました。

田居は、余呉川と国道八号線が交わったところにあり田んぼに囲まれた集落で、当寺は集落の東部にあります。

本堂正面の左側に掲示板があり『どんなことに出会っても 佛の教えを真剣に聞けば精神的に強くなり道は開ける』というお言葉が書かれてありました。高橋正龍前住職は、ほとんど自分で思ったこと、感じたことや自分がこうありたいということを、昭和五十三年から毎月初めに書いているとのことでした。

その内容は、「日々仕事や自分がしなければならぬことをしている時に、精神的、肉体的にうまくいかなく、どうにもならない時が出てくる。その時、心の中ですべてを阿弥陀さんに任せることで、心のゆとりができて安心して、自分のできる能力を精一杯使い努力し、一生懸命やってみることが出来る。そうすると、心の中に光がさして自分みたいなものとか、もうだめだとはならない。そうなる周囲の人がよく見えてくるようになります。心がお楽になる。」とのことでした。

また、前住職は、「明治十一年に黒田にあつた寺を、この地に移築し、昭和三十三年に改築したもので、一村一ヶ寺で村全部が門徒であり、まとまりが良い。」とお話しされていました。

それから、黒田官兵衛の先祖のお墓もありました。皆さんも一度「樹徳寺」さんに、お参りされ掲示板のお言葉に触れたらと思います。



(取材・広報委員 林)

## 第24組 部落問題研修会 テーマ「我が立つところを問う」

平成26年10月11日 立圓寺（高月町東高田）様にお世話になり、研修会が開催されました。講師に昨年もお話しいただいた、澤面宣了先生（浄願寺住職）を迎え御講話頂きました。

今回は、部落問題にポイントを絞り、お話頂きました。親鸞聖人は比叡山「丘」から民衆の中に降りられました。我々は丘の上から言葉を発しているのではないのでしょうか。そして私達が知らない、「難破別院輪番差別事件」を取り上げて第6回糾弾会の「米田富の怒り」の録音を聞かせてもらいました。糾弾の中で「御開山はね、親鸞聖人は」という言葉が多く聞かれました。糾弾の本質は「親鸞に帰れ」という問いかけですと先生は説明されました。途中で4～5人のグループに分かれ自由討議をして頂きましたが、時間をオーバーしても終わらない程熱心に討議を頂きました。

最後に湖北の人は法事にお参りした時、まず仏様に手を合わせ、そのあと挨拶される。これは湖北地域だけ。このように親鸞聖人の教えが根付いている「土徳」（どとく）を大切にしてくださいと話されました。

(社会部会 雨森善司)



於 立圓寺

夏～秋

# 青少年部の行事報告



## 夏のつどい

8月18日(月)の午前9時から木之本町大音の誓海寺にて、夏のつどいを行いました。参加者は子どもが20名、引率・保護者の方が3名、お手伝いの方が4名、スタッフが3名、さらに、4名の大谷大学児童教化研究会の学生の方に京都から来て頂きました。この日の前の週は雨続きで天気心配でしたが、雨も降ることなく、天気に恵まれました。

つどいでは始めに真宗宗歌、ちかいの言葉、お勤めを行い、お話を川那部副組長にして頂きました。次に大音の公民館に移動してカレー作りをみんなで行いました。再びお寺へ戻り、学生の方々による人形劇「うそつき魔法使い」を見て、ゴキブリジャンケン等のゲームをしました。公民館に移動し、お昼ご飯のカレーを食べました(デザートはゼリー付きです)。カレーをおかわりする子が何人もいました。最後は、お寺に戻って恩徳讃を歌って終わりました。

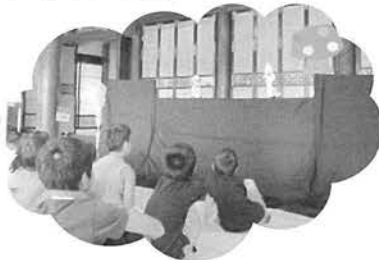
人形劇の様子



お米洗い中



ジャガイモの皮むき!



ゴキブリジャンケン◎

ゴキブリ→アヒル→サル→人間(アガリ)

勝つと進化、負けると退化する

## ワクワク土曜・日曜学校

今年度は9月～12月にかけて、委員の者が学区ごとに各お寺に訪問して、土曜・日曜学校の進

行やゲームをする事業もしております。

第1回目は9月27日(土)の午前9時から余呉町今市の明源寺にて行いました。参加者は子ども8名、大人14名で、大人の中には明源寺門徒の方々が多くいらっしゃいました。子どもの中には「初めて土曜学校に来た」という子が数人いました。こちらでは進行、お勤めの導師、ゲームを委員が行いました。この日は川那部副組長にも来て頂き、お話をさせて頂きました。明源寺の坊守の松浦さんに土曜・日曜学校についてお伺いしたところ、「最近では諸般の事情で出来ていない」とのこと、当日もご門徒の方々が朝早くから本堂の準備や境内の掃除をしておられました。その他のお寺の行事等でもご門徒の方々が手を貸して下さるそうです。

第2回目は10月5日(日)の午前8時から高月町西物部の雙林寺にて行いました。参加者は子ども11人、大人1名で、2ヶ寺からの参加でした。こちらのお寺では進行とゲームを委員が行い、お勤めの導師は雙林寺の子どもが行い、鑿打ちはご住職の川那部さんが行っていました。この日は美濃部組長にも来て頂き、お話をさせて頂きました。こちらのお寺では日曜学校に来たら、まず最初に自分の座布団を本堂の隅から取ってきて並べることが昔ながらのルールなのだそうです。ご住職と子ども達との距離は近く、とても仲が良かったです。

(青少年部 藤 直子)

### 第3回目からは・・・

10月18日(土) 覺勝寺(高月町西阿閉)

11月30日(日) 西徳寺(木之本町赤尾)

12月14日(日) 明徳寺(木之本町黒田)です♪



お勤め  
中  
雙林寺にて



# 御越年法要の由来

歳末から年始にかけては、誰もが過ぎた一年のことをふり返り、来る年に希望をつなぐ大切な時期ですが、旧湖北1市3郡では、毎年12月26日より翌年正月8日まで「御越年(ごおつねん)法要」として、東本願寺第20代達如上人が旧1市3郡へ御下付された、御父君乗如上人の御影2幅を1ヶ所に掛けまして法要を営み、念仏相續して各自の信心を確かめてられました。

また、これが終わると、最寄の村から順にその1幅ずつを2ヶ所にわけて「御鏡割法要」を営み、さらに続いて各集落毎に「まわりぼとけ様の法要」が営まれます。

その由来は今から約210余年前の天明8年(1788)、乗如上人45歳の時、京都に大火災がありました。正月30日の暁、洛東からでた火は鴨川を越えて西にひろがり、暴風にあおられて町々にとび、大内裡、仙洞御所、二条城をはじめ、東本願寺も、宝庫と枳殻邸(きこくてい)を残して全部焼け、各宗寺院950ヶ寺、民家19万1000戸、死者2630人に及びました。東本願寺では取りあえず仮の本堂として翌年5月、河内国八尾別院の本堂を移しました。

その翌年再建の御書を発せられ、それには「上は仏祖代々の冥意に対し下は門葉の悲歎に進退につき道を失える有様なり(中略)然れば即ち、一流にその名をかけたる道俗、如来大悲の恩徳を念じいささか当方の微意をくみえて、まず他力の信心を獲得して懇念のまことより自他一味の志を励まして一同の助成によって、速やかに再建就候ように、偏に頼み思うことにて候」と仰せられています。そして翌年3月28日から御影堂建立の工事が進められ、時の將軍徳川家齊公から飛驒の木材2000本等の寄進もありましたが、悲しいかな乗如上人は御悲歎と御辛勞のため、同4年2月22日49歳をもってお亡くなりになりました。

次いで第20代達如上人が工事を完了せられましたが、その期間、諸国の門徒が御手伝いにあがり、その合宿所が詰所等となづけて今も本山周辺に残っています。(※伊香詰所)

さて、達如上人は落慶法要にあたり、今日成就のよろこびは偏に乗如上人のご功績によるものと申され、かねて存命中に描かれた御寿像をお掛けになり、勤修されたと伝えられておりますが、程なく達如上人は、永い年月にわたり国もとを離れ再建のお手伝いに従事した湖北旧1市3郡門徒衆の苦勞に対し、特に乗如上人の御寿像2幅と御書(ごしょ)をお下げになり、法義相續を願われました。これは曾(かつ)て先例もないことなので、尊い思召しに感泣した代表の人々は、乗如上人の御命日の日をとって、湖北旧1市三郡一円の「二十二日講」を組織いたしました。この中心行事となるものが御越年であって、長浜旧市内、旧坂田郡山西、旧同郡山東、旧上浅井、旧伊香、旧下浅井の順に年々継承されております。

この御影は御生前のお姿ゆえ御寿像と申し、必ず毎年の年末年始にお鏡餅を供えて「御鏡割法要」を勤め、それを小割りして一般の信徒に分け、さらに、「まわりぼとけ様の法要」を営むことになりました。こうした大切な法要でありますから、こぞって参詣いたし、仏祖の報恩に御先祖の御苦勞感謝を兼ねて、念仏相續にいそしみたいところであります。(秦広報委員)

## <本年御越年法要日程> 会場 総会所(長浜別院大通寺台所門横)

日中は午前9時30分・速夜は午後1時より

12月26日(金)	速夜	澤面宣了氏(相撲町:浄願寺)
12月27日(土)	日中・速夜	橘善證氏(高月町:願超寺)
12月28日(日)	日中・速夜	秦信映氏(木之本町:明德寺)
1月6日(火)	日中・速夜	佐藤義成氏(湯次町:満徳寺)
1月7日(水)	日中・速夜	林憲淳氏(垂井町:宝光寺)
1月8日(木)	日中	林憲淳氏(垂井町:宝光寺)